

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 須永 徹

平成 29 年 10 月発行



太田市近辺の伝統的稲刈り・天日乾燥法。刈り取った稲を大束にし、束同士を写真のように組んでいく。一般的な天日干しにみられる竹組は使用しないでこの農法の保存継承を図っている。

群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 29 年 10 月 20 日現在)新規登録 99 名

第 10 期(登録期間:平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 29 年 10 月 4 日現在、男 217 名 女 90 名、計 307 名です。

自然環境部会 60 名 温暖化・エネルギー部会 42 名
ごみ部会 38 名 広報委員会 19 名が登録し活動されています。
送付方法、メール 162 名 封書 145 名

目次(執筆者)

表紙画像・文 星野 雅範(太田市)

P2 環境政策課

P3 廃棄物リサイクル課、須永代表から

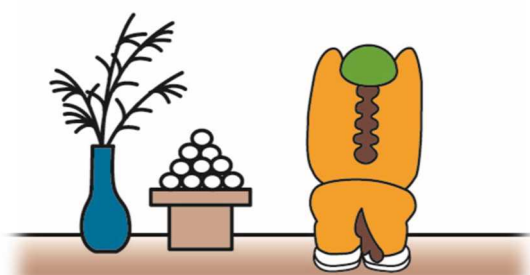
P4 伊藤さん、荻野さんから

P5 ごみ減量フォーラム参加者から

P6 ごみ部会から、フォーラム宣言の様子

P7 自然環境部会から

P8 梅山さんから、環境フェスティバルから



レジ袋削減店頭啓発効果測定の協力について

日頃、本協議会の運営に多大なる御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、レジ袋削減に向けた店頭啓発活動については従前から御協力いただいていたところですが、今年度は各市に1店舗モデル店を指定し、10月から毎月1回店頭啓発活動を実施しております。

6ヶ月間継続的に啓発することによるレジ袋辞退率向上の効果を測定し、今後の活動の参考としたいと考えております。

つきましては、各地区の啓発活動の実施に御協力いただきますようお願いいたします。

なお、御協力いただける方につきましては、各地区幹事の方まで参加日時を御連絡ください。

各地区幹事が不明の場合は下記担当までお問い合わせください。

日程一覧

モデル店	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ベシシア前橋モール店 上泉町680-1	3日(火) 10時～12時	1日(水) 11時～12時	6日(水) 〃	5日(金) 〃	1日(木) 〃	1日(木) 〃
ベルク飯塚店 飯塚町123-3	2日(月) 10時～12時	1日(水) 〃	6日(水) 〃	9日(火) 〃	1日(木) 〃	5日(月) 〃
フレッセイ桐生南店 新宿2-10-30	4日(水) 10時～12時	7日(火) 11時～12時	6日(水) 〃	10日(水) 〃	7日(水) 〃	7日(水) 〃
コープぐんま宮子店 宮子町3523-1	10日(火) 10時～12時	7日(火) 〃	5日(火) 〃	9日(火) 〃	6日(火) 〃	6日(火) 〃
とりせん太田八幡店 八幡町29-13	4日(水) 11時～12時30分	8日(水) 〃	6日(水) 〃	10日(水) 〃	7日(水) 〃	7日(水) 〃
フレッセイ沼田店 材木町292	2日(月) 10時～12時	1日(水) 〃	1日(金) 〃	10日(水) 〃	1日(木) 〃	1日(木) 〃
カスミ館林店 新宿1-18-3	6日(金) 10時～12時	10日(金) 〃	8日(金) 〃	12日(金) 〃	2日(金) 〃	2日(金) 〃
ベシシア渋川にもち店 吹屋657-30	4日(水) 10時～12時	1日(水) 〃	6日(水) 〃	10日(水) 〃	7日(水) 〃	7日(水) 〃
コープぐんま藤岡店 藤岡2390-1	2日(月) 10時～12時	2日(木) 〃	1日(金) 〃	9日(火) 〃	1日(木) 〃	1日(木) 〃
フレッセイ富岡店 富岡501	4日(水) 10時～12時	1日(水) 〃	6日(水) 〃	10日(水) 〃	7日(水) 〃	7日(水) 〃
JAファーマーズ安中店 原市634	6日(金) 10時～12時	1日(水) 〃	1日(金) 〃	10日(水) 〃	1日(木) 〃	1日(木) 〃
Aコープ笠懸店 笠懸町鹿2916	2日(月) 10時～12時	1日(水) 〃	5日(火) 〃	10日(水) 〃	1日(木) 〃	1日(木) 〃

新しくなった
マイバッグ運動に
ご参加ください！！



事務局：群馬県環境森林部環境政策課
環境活動推進係 古屋・松原
電 話：027-226-2821
FAX：027-243-7702
E-mail：ecosusumu@pref.gunma.lg.jp

「みんなのごみ減量フォーラム」開催

群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課

平成 29 年 9 月 15 日（金）13 時 30 分～群馬県・群馬県環境アドバイザー連絡協議会共催による「みんなのごみ減量フォーラム」を『食品ロス削減と生ごみ減量』をテーマに開催しました。このフォーラムは、群馬県環境アドバイザー連絡協議会主催の事例発表会と、県主催の「ぐんま循環型社会づくりフォーラム」とを合体し、平成 25 年度から開催しています。

環境アドバイザーの皆様には、自主的に、かつ、熱心に準備を進められ、フォーラムを開催できましたことに感謝申し上げます。

当日は、環境アドバイザーの皆様、日頃、ごみ減量やリサイクルの推進に熱心に取り組まれている団体の皆様、ごみの減量に関心をお持ちの県民の皆様、行政担当者の皆様などたくさんの方にお集まりいただきました。

第一部は、全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会会長で、ジャーナリスト・環境カウンセラーの崎田裕子先生による講演です。家庭から排出される生ごみの約 40%が食品ロスであり、その削減には、食べきり・使いきりが重要であるというお話をいただきました。

第二部は、群馬県くらしの会連絡協議会会長の木島氏、NPO 法人新田環境みらいの会の小澤氏、群馬県飲食業生活衛生同業組合理事長の深堀氏の 3 名の方による事例発表の後、群馬県環境アドバイザー連絡協議会の須永代表も加わり、群馬県のごみを減量するにはどうすればよいかについてパネルディスカッションをしました。会場の皆様からの御提案もいただきました。

たくさんの皆様の御協力により、大変有意義なフォーラムとなりました。

平成 27 年度の群馬県の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は全国ワースト 3 位、生活系収集可燃ごみの排出量は全国ワースト 1 位という状況です。

第二次群馬県循環型社会づくり推進計画の基本理念を実現に導き、平成 31 年度の 1 人 1 日当たりのごみ排出量 913 g 以下、生活系収集可燃ごみの排出量 464 g の目標を達成するためには、行政だけでなく、環境アドバイザーをはじめとする民間活動団体、事業者、そして県民の皆様方の役割が大変重要です。皆様におかれましては、フォーラムの成果を日々の活動に活かし、循環型社会づくりを目指し、より一層の御協力をお願いいたします。

みんなのごみ減量フォーラムを終えて

群馬県環境アドバイザー連絡協議会

代表 須永 徹

第 5 回目となる「みんなのごみ減量フォーラム」は 9 月 15 日に、過去最大の参加者を迎え、成功裡に終えることが出来ました。当日までの準備や、当日のスタッフとして関わっていただいたアドバイザー及び県の担当の皆様に熱く御礼申し上げます。

崎田さんの基調講演や活動している方々の事例発表、パネルディスカッションと盛沢山の内容でしたが、参加者の熱い想いも伝わって来て充実した内容でした。

さて、フォーラムは終わりましたが、群馬のゴミを減らしていく活動はこれからが本番となります。当日はごみ減量の宣言も参加者の皆さんにご賛同を得ましたが、これから環境アドバイザーとして具体的に何をなすべきかを検討し、各地域を中心に拡散していかなければなりません。ますます地域のリーダーとして周囲を巻き込み、広く県民運動として発展させていくことが課題となりますので、皆さんのなお一層のご活躍をお願いいたします。

「みんなのごみ減量フォーラム」に主催者として携わったアドバイザーの声

みんなのごみ減量フォーラムを終えて

好天に恵まれた9月15日、フォーラム会場（県庁ビジターセンター）は、定員120名を超える県民の皆様が訪れ、熱気にあふれていました。

さて、群馬県民一人一日当たりのごみの排出量が、全国ワースト3位、生活系収集可燃ごみが全国ワースト1位です。このフォーラムは、ごみを減らすには、一人ひとりが生活スタイルを見直すことが必要であり、フォーラムに参加してごみ問題を考えるきっかけとしていただくために、群馬県と群馬県環境アドバイザー連絡協議会が共催で開催しています。

例年ですと新年度が始まると初回の会議を開催し、11月の開催時期に合わせて、企画・事務手続きを進めてきたところですが、今年度は開催時期を2か月早めたことにより、初回の会議を28年度内に開催し、全体のスケジュールを確認しました。理由は、11月は他のイベントが多く開催されるため、重複を考慮したからです。4月の第2回の準備会は出席可能なアドバイザーに集まっておいただき、開催会場やフォーラムの構成、スケジュールについて協議しました。6月には、県とアドバイザー連絡協議会役員による会議で、日時、会場、定員、テーマ、講師、構成と担当など全体の骨子が決まり、7月の第3回準備会で了承されました。そして、9月の第4回準備会では、各部門の進捗状況の報告及び参加申し込み状況の報告、当日参会者に配布するエコグッズサンプルの袋詰めなど、最終作業を行いました。

また、説明したい事項はたくさんありますが、紙面の都合上、お許しください。

終わりに、フォーラム開催にあたり、ご指導、ご協力いただいた関係各位また、ご出席いただいた皆様に感謝申し上げます。

（環境アドバイザー 渋川市 伊藤 朝弘）

みんなのごみ減量フォーラムを終えて

9月15日、本年度の「みんなのごみ減量フォーラム」が開催されました。

まだ、残暑厳しい中、定員超えをする程の人たちが集まってくださり、盛大に実施出来たことは本当に良かったと思います。返せば、環境に関心のある方が多いということだと思いました。

講師の崎田さんのやわらかで説得力のある語りは体に染み入る様でした。生ごみの3キリ運動も大きく広げたい一つです。生ごみの水切りもごみ減量につながる要素ですが、他の要因で手抜きがちになってしまいます。そして身近な課題として、食品ロスとなる部分、買いすぎ、作りすぎ、食べ残しに対しての取り組み、考え方を改めてもらう、こんな必要性も感じました。

また、くらしの会代表の方、新田環境みらいの会の方の二氏の取り組み、活動発表も現実的でとても良かったです。

このように、他地域で活動している方が、大きな場所で発表できるチャンス、これで増々深く広く取り組む機会になるよう願っています。

展示コーナーにおいても大勢の方が見てくださり、参考になったかと思いました。

そして、大きな目標として、“ごみの少ない群馬県”となるよう努めたいものです。ごみワーストでなく、上位〇番となるようごみ減量を県民に周知徹底、これが県民運動につながればと思います。

（環境アドバイザー 太田市 荻野小夜子）

「みんなのごみ減量フォーラム」参加者の声

「みんなのごみ減量フォーラム」の参加者に、フォーラムの感想やごみへの思いなどについて会場で聞きました。
(広報委員／梅山さやか)

フードロスの推進をしている。皆さんいい取り組みと思って頂けるが、実際に取り組む段階になると実践は困難と思われる方も多く、これから課題を解決していきたい。

関係団体

ごみの問題について考えると、何が問題なのか？最終処分場や費やされる税金について・・・、本質的意味や状況を掘り下げていくことが重要と思う。また、スローガンだけでなく、ごみの排出が少ない市民に対して、税金を節約する努力をしたのだから還元がある等、メリットがある制度を作るなどあるといいしそれが促進につながるのではないかな？

太田市 男性

食品ロスに関心があったが、フォーラムに参加して、これから食品ロスは大きな取り組むべき課題と実感した。自分の活動の中に取り込んでいきたい。

また、リユース食器を利用した行事に携わったことがあるが、食べ残しが少なかった。食品ロスにつながってますよね。

前橋市 女性

○「みんなのごみ減量フォーラム」写真集○



「第一部講演会」で講演をされる講師の崎田氏



熱心に聞き入る参加者の皆さん



「第二部事例紹介&パネルディスカッション」のパネリストの皆さん



エコグッズ等の展示コーナーには大勢の方が訪れ、出展者と活発な意見交換、情報交換

「みんなのごみ減量フォーラム宣言」

フォーラムの最後に、参加した皆さんのごみ減量への熱意を継続的に取り組む力とすることを確認するとともに、周りの方に積極的にごみ減量を働きかけることを決意する意味で、「みんなのごみ減量フォーラム宣言」を行いました。

“私たちフォーラム参加者は、生ごみをはじめとするごみ減量に自ら積極的に取り組み実践するとともに、周りの人に継続的にごみ減量を働きかけることを宣言する”



「宣言中の様子」

.....

ごみ部会報告

ごみ部会 山田一朗

先の9月15日（金）に開催された「みんなのごみ減量フォーラム」は延べ参加人数140名で、5回のフォーラムを通じて最多となった。フォーラム宣言も出せて、何とも嬉しい限りだが、ここを群馬のごみ減量運動の出発点としたい。

今年度の初め4月に、部会として何をするかという話し合いをした。取り組みたい活動は様々あるが、ごみ減量活動の前提として、先ずはごみに関する勉強が必要と言う意見が多く出た。そしてどうせやるならより多くの人に呼びかけようと言うことになった。勉強会の案内を連絡協議会名で全アドバイザーに配布した結果、通常の部会に比べ倍以上の参加を得ることができた。

勉強会では3キリ運動や食品ロス、3010運動、雑草や剪定枝の処理、雑古紙収集などが話題となった。中でもごみの区分については誤解の生じやすい部分だと思う。工場、商店、事務所などの事業所から出るごみの内、法律で定められた20品目を産業廃棄物と言う。それ以外が一般廃棄物で、排出主体により事業系と生活系に分かれる。また分別方法により可燃ごみ、不燃ごみ、資源物、粗大ごみなどに分けられる。平成27年度実績でワースト3と言うのはこの一般廃棄物のことで、生活系収集可燃ごみはここ数年ワースト1となっている。この生活系収集可燃ごみと言うのは、平たく言えば私たちがごみステーションに出している燃えるゴミのこと。群馬県の一人1日当たりの生活系収集可燃ごみは、平成27年度現在575gでワースト1と言う事実、これを平成31年には111g以上減らして464g以下にしたいと考えている。ちなみにこの464g以下と言うのは、第二次群馬県循環型社会づくり推進計画の内、一般廃棄物減量化目標の新目標となっている。

渡良瀬遊水地と多々良沼周辺の観察会

自然環境部会 田中和夫

県環境アドバイザーで、館林市の「ふるさとガイドの会」会長でもある荒井孫四郎さんの御尽力で市の福祉協会のバスを借り切り、一日周辺を案内していただきました。本行事は自然環境部会主催ですが、広くアドバイザー全体に呼びかけました。

8月3日（木）県立館林美術館前に集合。当日は前橋・高崎・みどり市から計13名が集まりました。まず荒井さんからこのあたりは「内陸古砂丘」と言う珍しい地形である事、近所の水路に（小さいですが）オニバスが自生しているとの説明がありました。

そのあとバスで渡良瀬遊水地の近くにある「わたらせ自然館」へ。まずビデオでこの遊水地が出来るまでの歴史、施設の機能などを勉強した後、今年で70年目となる「カスリン台風」についての臨場感あふれる話を荒井さんから伺いました。この台風は典型的な雨台風で、死者は1,077名（内群馬県で過半数の592名）、行方不明者は853名という甚大な被害を出しました。

この遊水地は当初足尾銅山の鉱毒対策として計画され、その後洪水対策や首都圏の水源確保の機能も加わり多目的化している由。

上毛新聞の記者も合流して遊水地（谷中湖）を見学した後、地元のガイドの案内で旧谷中村の遺跡を見学しました。谷中湖は1989年の完成ですが、旧谷中村有志の尽力で雷電神社跡、延命院跡、役場跡などを残す事にしたので一部が凹み現在のハート型になったとか。その後2012年には湿地保全のラムサール条約に登録されました。この見学会でも群馬県でも貴重になった「フジバカマ：秋の七草」が観察されました。

このあと東洋大学板倉キャンパスの学生食堂で昼食を摂り多々良沼に向かいました。ここでもDVDによる説明があり、多々良の名は「たたら製鉄」に起因するもので、周囲では今でも金糞（かなくそ；製鉄カス）が見つかるとの事でした。冬場は白鳥飛来地として有名ですが、他にも色々な鳥が来るそうです。

美術館の近くに戻り、入野谷湿田の食虫植物「ムジナモ」自生地へ。一見目立たぬ場所ですが、荒井さんの案内で湿地に踏み込んで行くとありました。周囲には花が無いので見落としそうですが「カキツバタ」も自生しているそうです。

最後に参加者全員にムジナモが配られ、「増えたなら又ここに戻りに来て下さい」との事でした。

旧谷中村見学で時間をとってしまい、予定していた全てを回る事ができなかったのは残念ですが、充実した一日でした。荒井さん、お世話になりました。

またこのような機会を設けたいと思います。なお、渡良瀬遊水地見学の模様は翌8月4日の上毛新聞に掲載されました。



「

渡良瀬遊水地の谷中湖にて」

君はヒーローだ。資源を分けて地球をきれいにして！！

(前橋地区 梅山さやか)

前橋市の生涯学習推進本部と前橋市生涯学習奨励員連絡協議会による“生涯学習フェスティバル 2017”が、8月26、27日に前橋プラザ元気21にて開催されました。町内会の生涯学習員さん達が中心となって市民の生涯学習の紹介や発表をするお祭りです。

アドバイザーとして野呂(吉岡町)、齋藤(伊勢崎市)、梅山(前橋市)が参加しました。ブースでは子供向けに資源の分別釣りゲームや発電、またアドバイザーの紹介や募集を行いました。ゲームツールは群馬県の「子ども向け地域環境学習支援事業」を利用し借りたものです。私たちはちょっとアレンジして、怪獣になったアドバイザーがゴミだらけにした地球を子ども達が資源を釣り分け救う、という演出をしました。最後には牛乳パックで作ったヒーローバッチを子ども達の胸に付けました。

二日で約100人の子ども達が「このパックはどこに分けるかな？」と楽しそうに真剣に分別を体験しました。うちに帰った子ども達が家族の中で率先してリサイクルしてくれるといいなと思います。



群馬県環境フェスティバルに出展

9月30日(土)9時～15時、第19回群馬県環境フェスティバルが高崎駅前のヤマダ電機LABI Iを会場として開催されました。

環境アドバイザーも昨年に引き続き、4階にブースを出展しました。

出展内容は、過日(9/15)に開催した「みんなのごみ減量フォーラム」を受けてごみ減量化に向け、①環境アンケート(レジ袋削減、生ごみ減量・雑草の処理、雑がみの資源化、廃食用油の資源化などについて)の実施とエコグッズ(水切りネット紙ひも)の配布、②台所の流し台で使う水切りグッズと古紙回収時に古紙を束ねる紙ひもなどの展示・紹介。また、専門部会の活動紹介として、③ごみ部会の展示(一般ごみに関するデータ)、④自然環境部会の展示(食虫植物の水草：ムジナモ)などを行いました。

さらに、新規環境アドバイザーの募集活動、県の3R宣言書の登録の呼びかけを合わせて行いました。

当日アドバイザーは、延べ12名が参加して来場者への呼びかけを行い、アンケート42件の記入・回収、3R宣言38件の登録を受けました。

来年も出展し、県環境アドバイザー活動の紹介と地球環境問題の提起、対策への取り組みの啓発を行いたいと思います。アドバイザーの皆さんの参加をお願いします。



次回 72 号の発行は、1 月 20 日付にて発行致します。